

スマートminiガイド



OPPO Reno A 128GB

CONTENTS

便利機能

Section 01 便利な機能を活用しよう	4
スクリーンショット/ロングスクリーンショットを撮る	4
ドローモードを活用してホーム画面を整理整頓する	5
スマートサイドバーでよく使うアプリをすばやく起動する	6
名刺をカメラスキャンして連絡帳にかんたん登録する	7
テザリングを活用する	8
2画面分割モードで別のアプリを同時に使う	9
ゲームスペースでゲームに集中できる環境を作る	10
キッズスペースで安心して子供にスマホを使わせる	11
アプリにパスコードロックをかけてプライバシーを守る	12
アプリアイコンを隠して強力にプライバシーを守る	13

基本設定

Section 02 Googleアカウントを設定しよう	14
Section 03 データの移行をしよう ~ iPhone	16
Section 04 データの移行をしよう ~ Android	18
Section 05 LINEを引き継ごう	20
Section 06 カメラで写真・動画を撮ろう	24

電源を入れて、早速使い始めよう!!



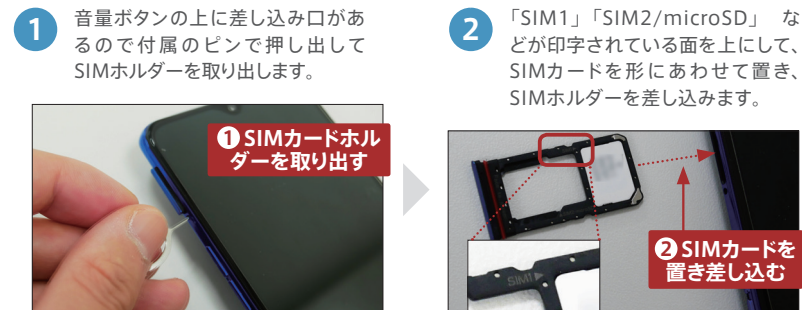
※Wi-FiやGoogleアカウントの設定はスキップして、後から設定できます。

●**ご注意:**
本書に記載した内容は、情報の提供のみを目的としています。したがって、本書を用いた運用は、必ずお客様自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用の結果について、オッポジャパン株式会社およびアプリの開発者はいかなる責任も負いません。また解説内容は、2019年9月現在での最新バージョンをもとにしています。アプリのUIや操作手順はバージョンアップで変更される場合もあり、本書で説明している機能内容や画面図などが異なってしまうこともあります。あらかじめご了承ください。本書に掲載した会社名、プログラム名、システム名などは、米国およびその他の国における登録商標または商標です。本文中では、TM、®マークは明記していません。以上の注意事項をご承諾いただいたうえで、本書をご利用願います。

OPPO Reno A 128GBをご利用いただく前に

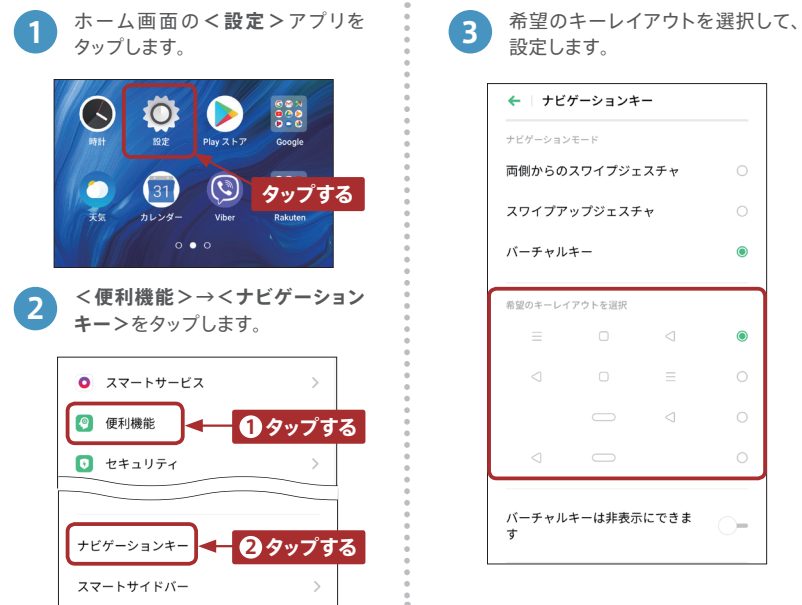
●SIMカードを入れる

付属のピンを使用してSIMホルダーを取り出し、SIMカードを差し込んでスマートフォンに入れましょう。SIMを入れる際は電源をオフにしてください。



●慣れたホームボタン設定にする

ホームボタン、戻るボタン、マルチタスクボタンのキーレイアウトは自分好みに変更できるので設定しましょう。



便利な機能を活用しよう

OPPO Reno Aをはじめ、OPPOスマートフォンには共通した、便利な機能が多く搭載されています。ビジネスにもプライベートにも、いろんなシーンで活用できます。

■ スクリーンショット/ロングスクリーンショットを撮る

3本指で画面を上から下へスワイプさせるだけで、かんたんに、より感覚的にスクリーンショットを撮れます。さらに、Webページや乗り換え案内などの縦長の画面では、スクリーンショットとして残したい箇所までスクロールすることで、1枚のロングスクリーンショットに収められます。

- 1 画面を3本指で上から下へスワイプさせます。



※電源ボタン+音量下げるボタン同時押しでもスクリーンショットを撮ることが可能です。

- 2 スクリーンショットが撮れます。さらに<縦長スクリーンショット>をタップすると、ロングスクリーンショットが取得できる画面に切り替わります。



- 3 スクリーンショットしたい箇所までスクロールすれば、ロングスクリーンショットが撮れます。



② 1枚のロングスクリーンショットが撮れる

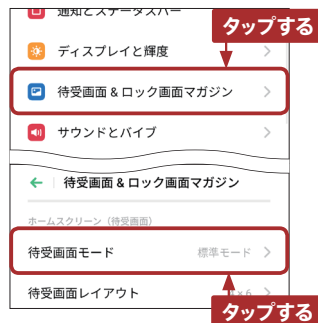
■ ドロワーモードを活用してホーム画面を整理整頓する

ドロワーモードを設定すれば、すべてのアプリを一覧表示で確認できるので、ホーム画面にはよく使うアプリだけを表示させて、ホーム画面の整理整頓ができます。またアプリはタッチ&ドラッグで簡単にホーム画面の好きな位置へ移動させることもできます。

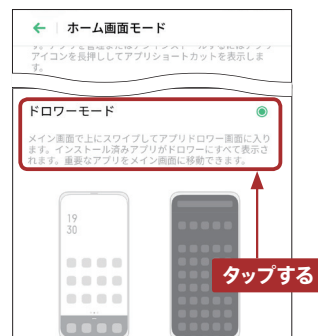
- 1 ホーム画面の<設定>アプリをタップします。



- 2 <待受画面&ロック画面マガジン>→<待受画面モード>をタップします。



- 3 <ドロワーモード>をタップすれば有効になります。



- 4 ホーム画面下部にが表示され、下から上へスワイプすればドロワーモードを表示できます。



- 5 すべてのアプリを一覧で閲覧でき、タップすればすぐ起動もできます。



- 6 アプリはタッチ&ドラッグすることで、ホーム画面の好きな位置へ移動できます。



■ スマートサイドバーでよく使うアプリをすばやく起動する

スマートサイドバーは、画面右端の半透明の白いバーをスワイプさせると表示できます。スマートサイドバーにはよく使うアプリを登録して、いつでもすばやく起動ができます。またLINEなどは、他のアプリの動作を止めることなく、フローティングウィンドウ（画面の上に浮かせた状態）で表示され、同時に操作できます。

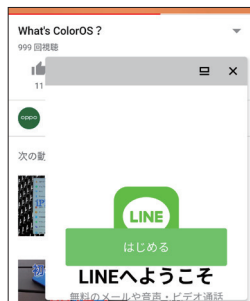
- 1 アプリ起動中でも、画面の右上に半透明の白いバーがあるので、スワイプしてスマートサイドバーを表示させます。



- 2 スマートサイドバーを長押しすると、登録するアプリの追加や削除ができます。



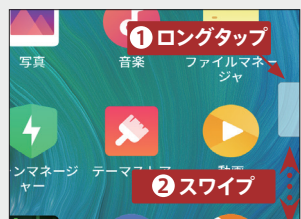
- 3 アプリの起動中でも、LINEなどはフローティングウィンドウで起動して、同時に操作できます。フローティングウィンドウ未対応アプリは、スマートサイドバーからタップすると起動が切り替わります。



※フローティングできるアプリ
LINE、メッセージ (SMS)、Messenger (Facebook)、WeChat、WhatsApp など

MEMO 表示位置は変更可能

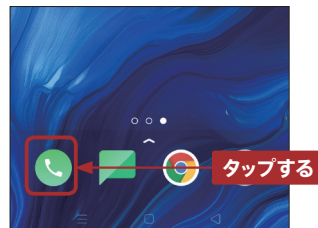
スマートサイドバーを長押ししてスワイプすることで、表示位置を変更ができます。



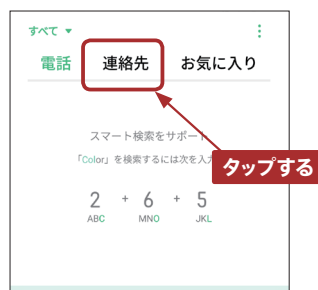
■ 名刺をカメラスキャンして連絡帳にかんたん登録する

連絡先を新規登録するとき、名刺をカメラでスキャンして登録できます。時間と手間が大幅に短縮できる方法で、名刺は横型・縦型どちらにも対応しています。

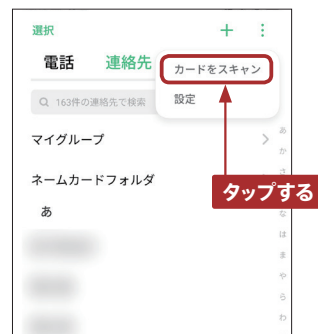
- 1 ホーム画面の＜電話＞アプリをタップします。



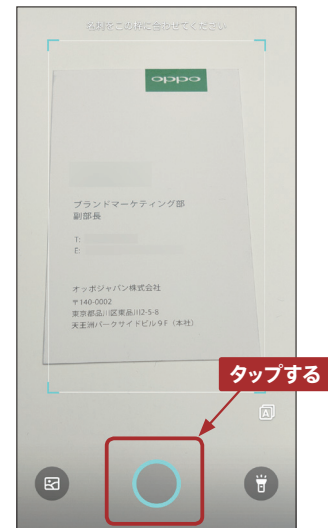
- 2 ＜連絡先＞をタップします。



- 3 画面右上の：から、＜カードをスキャン＞をタップします。



- 4 撮影画面に切り替わるので、名刺を枠の中に合わせ撮影ボタンをタップします。



- 5 内容を確認して、＜保存＞をタップすると連絡先に保存されます。



■ テザリングを活用する

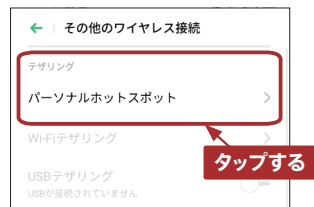
モバイルデータ通信に接続していれば、OPPO Reno Aでは最大10台もの端末にテザリング接続させることができます。接続させる端末側にも設定は必要です。

● テザリング設定の準備

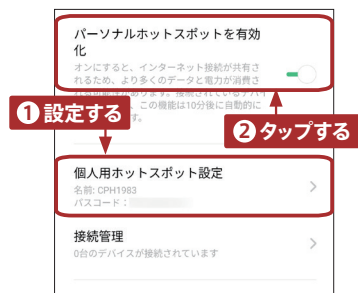
- 1 <設定>アプリから<その他のワイヤレス接続>をタップします。



- 2 <パーソナルホットスポット>をタップします。



- 3 <個人用ホットスポット設定>で名前やパスコードの設定をして、<パーソナルホットスポットを有効化>をタップしてオンにすれば、テザリング設定の準備は完了です。



MEMO コントロールセンター登録で設定の手間省略

画面上部からスワイプして表示されるコントロールセンターにある<インターネット共有>のアイコンをタップすれば、これまでの手順①～③と同じ設定ができます。デフォルトでは<インターネット共有>アイコンは表示されませんが、**設定**からタッチ&ドラッグで移動して表示できます。



● Bluetoothテザリング

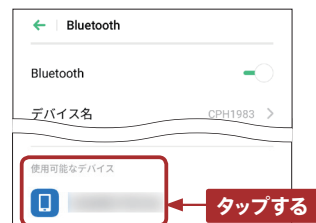
- 1 <その他のワイヤレス接続>で<Bluetoothテザリング>を有効にします。



- 2 <設定>画面に一旦戻り、<Bluetooth>をタップします。



- 3 接続させる端末にもBluetooth設定をすると、<使用可能なデバイス>に表示されるようになるので、これをタップして、画面に従いペアリングの設定をします。



- 4 ペアリングが完了すると、接続させたい端末が<ペアリングされたデバイス>として表示されるので、これをタップします。



- 5 <インターネット接続の共有>を有効にすれば、Bluetoothテザリングは完了です。



■ 2画面分割モードで別のアプリを同時に使う

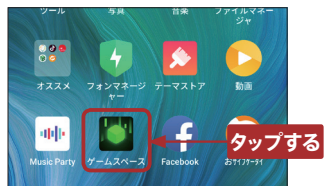
3本指で下から上にスワイプすると、画面を縦に2分割表示して、別のアプリを同時に起動できます。マルチタスクボタン長押しでも同様の操作が可能です。



■ ゲームスペースでゲームに集中できる環境を作る

ゲームスペースにゲームアプリを登録すると、ゲームの動作を高パフォーマンスにしてよりスムーズにプレイできるように設定したり、ゲーム中に着信やLINEの通知があったときにブロックしたりできます。グラフィックスの加速やメモリの開放を行い、もっとゲームを快適に楽しむことができます。

- 1 ホーム画面の＜ゲームスペース＞をタップします。



- 2 起動後、＜手動で追加＞をタップしてゲームアプリを追加します。



- 3 ＜ゲームを追加する＞画面になるので、ゲームスペースに追加するアプリを選択します。



- 4 選択したゲームアプリはさまざまなモード設定が可能で、ゲームのパフォーマンスを上げられます。



- 5 登録したゲームアプリを起動すると、ゲームスペースに接続され、グラフィックスの加速やメモリの開放などが行われます。



■ キッズスペースで安心して子供にスマホを使わせる

キッズスペースを使えば、お子様にスマートフォンを渡して使用させるとき、使用時間や使用許可のアプリ、モバイルデータ通信などに制限をかけられます。例えば、Google Playストアを使用不可にすれば、課金が必要なアプリを新たにインストールされることを防いで、お子様に安心してスマホを使わせることができます。

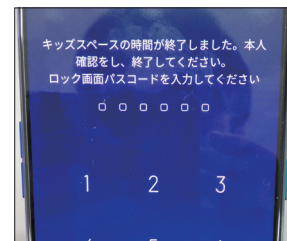
- 1 ホーム画面の＜設定＞から、＜セキュリティ＞→＜キッズスペース＞をタップします。使用時間やアクセス許可するアプリ、モバイルデータ通信のオン／オフなど、各種の制限設定をして、＜キッズスペースを開始＞をタップします。



- 2 キッズスペースの機能が開始され、指定したアプリのみ表示され、指定した時間だけ使えるようになります。＜モバイルデータ通信のオフ＞を有効にしていると、Wi-Fiしかネットワーク接続ができません。



- 3 あらかじめ指定した時間が過ぎると、パスコードでキッズスペースを終了させる画面のみ表示されます。



MEMO コントロールセンター登録で設定の手間省略

画面上部からスワイプして表示されるコントロールセンターに＜キッズスペース＞のアイコンを追加すれば、そのアイコンタップだけで前回と同じ設定のキッズスペースが開始できます。＜キッズスペース＞のアイコン追加は[3]からタッチ&ドラッグで移動して表示できます。



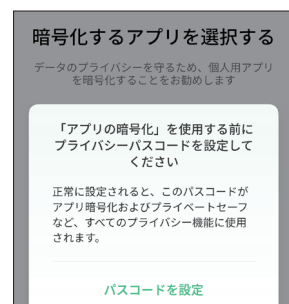
■ アプリにパスコードロックをかけてプライバシーを守る

メールやLINE、写真など、プライバシー情報のあるアプリにパスコードロックをかけることができます。設定するときは数字6桁のパスコードを設定します。この設定をしたアプリは起動のたびにパスコード入力が必要になります。

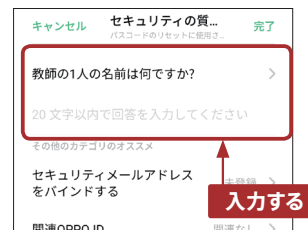
- 1 <設定>アプリから<セキュリティ>→<アプリの暗号化>をタップします。



- 2 はじめてアプリの暗号化の設定を行うときはパスコード（数字6桁）の設定が必要です。



- 3 <セキュリティの質問>の設定を求められるので、入力します。



- 4 パスコードをかけたいアプリにチェックを入れます。



- 5 暗号化されたアプリには鍵マークが表示されます。



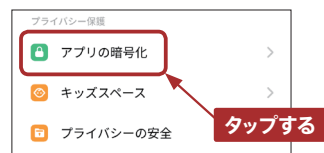
- 6 暗号化したアプリを起動してみるとパスコード入力を求められます。



■ アプリアイコンを隠して強力にプライバシーを守る

自宅住所や銀行の情報など、秘密にしておきたいセンシティブな情報をアプリ内に保存している場合は、アプリアイコン自体をホーム画面上から非表示にすることで、P.12のパスコードロックよりも強力に他人の覗き見から情報を守ることができます。

- 1 <設定>アプリから<セキュリティ>→<アプリの暗号化>をタップします。プライバシーパスコードが求められるので、入力して設定画面を開きます。



- 2 <アプリのロック>画面が表示されるので、非表示にしたいアプリをタップします（今回はGmail）。



- 3 アプリの暗号化設定画面で<ホームスクリーンアイコンを隠す>を有効にすることで画面からアイコンを非表示にできます。



- 4 <ホームスクリーンアイコンを隠す>設定を初めて行うときは、アクセス番号の設定を求められます。アクセス番号は、「#1234#」のようにシャープで囲まれた数値の設定を行います。



- 5 <Gmail>のアイコンが非表示になります。



- 6 非表示にしたアイコンを表示したいときは<電話>のダイヤル画面でアクセス番号を入力します。



Googleアカウントを設定しよう

ここからはお手持ちの端末に各種設定をして、実際に使い始める準備を説明します。
まずはGoogleアカウントを登録して基本的なサービスを利用できるようにします。

Googleアカウントを設定する

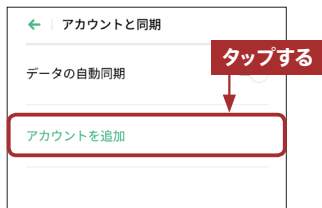
- 1 ホーム画面の<設定>アプリをタップします。



- 2 <設定>が表示されるので、<アカウントと同期>をタップします。



- 3 <アカウントを追加>をタップします。



- 4 <Google>をタップします。



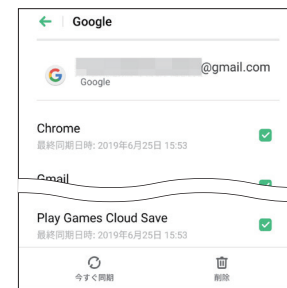
- 5 新規にアカウントを取得する場合は、<アカウントを作成>→<自分用>をタップして、画面の指示に従って進めます。



- 6 アカウント登録が終了すると、<アカウントと同期>画面になります。<データの自動同期>がオンになっていることを確認して、追加したGoogleアカウントをタップするとアカウントの同期に進みます。



- 7 同期するサービス一覧が表示されます。サービス名の右隣にあるチェックボックスをタップすることで、同期のオン/オフを切り替えることができます。



MEMO キーボードの切り替え

キーボードの左上に表示されるQをタップすることで、標準のテンキー入力やローマ字入力の「QWERTYキーボード」など、詳細を設定できます。

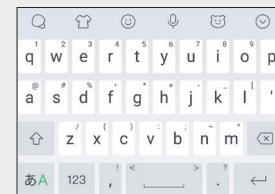
- 1 Qをタップすると、設定画面が表示されるので、<キーボード>をタップします。



- 2 テンキーやQWERTYキーボードが選択できます。



- 3 手順2で、<English>の<QWERTY>を選択すると、ローマ字入力に切り替わります。



- 4 手順1の設定画面には<詳細設定を開く>というアイコンがあり、これをタップすると、キーボードだけでなく絵文字や翻訳なども詳細に設定できます。



データの移行をしよう ～ iPhone

OPPOスマートフォンにはデータ移行アプリがあり、iPhone側のiCloudと連携することで連絡先と写真の移行ができます。

iPhoneのデータはiCloudでバックアップ

古いiPhoneからのデータを移行するには、iCloudとOPPOスマートフォンにインストールされている「データ移行」という標準アプリを連携した移行方法があります。バックアップできるデータは、連絡先と写真です。なお、無料で利用できるiCloudの容量は5GBなので、それ以上のデータをバックアップするには有料のプランで容量を拡張する必要があります。また、iCloudは、Wi-Fi環境でしか利用できないので、大容量のデータを扱う場合は時間がかかります。

● iCloudでバックアップ (iPhone側の操作)

- 1 Wi-Fiに接続して<設定>をタップし、<画面上部の自分の名前>→<iCloud>の順にタップします。



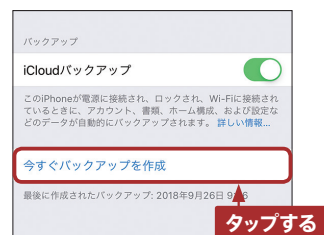
- 2 iCloudのバックアップ設定で、<写真>、<連絡先>をタップしてオンにします。



- 3 画面下部の<iCloudバックアップ>をタップします。



- 4 <今すぐバックアップを作成>をタップすると、iCloudにバックアップが作成されます。



iCloudとデータ移行アプリを連携して復元する

● OPPOスマホ側の操作

- 1 ホーム画面で<ツール>フォルダをタップして、<データ移行>をタップします。



- 2 画面に従い、<New Phone>→<iPhoneからインポートする>をタップします。



- 3 <iPhoneからインポートする>画面で、Apple IDとパスコードを求められるので、入力します。



● iPhone側の操作

- 4 「Apple IDサインインが要求されました」と表示されるので、<許可する>をタップします。



- 5 <Apple ID確認コード>が表示されるのでこれをメモします。



● OPPOスマホ側の操作

- 6 「Apple ID2ファクタ認証」と表示されるので、iPhone側で表示された確認コードを入力して、<認証>をタップします。すると<インポートを開始>と表示されるので、これをタップすればデータ移行が完了します。



データの移行をしよう ～ Android

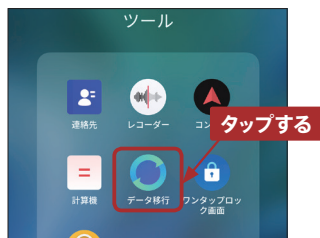
古いAndroid端末に「Clone Phone」というアプリをインストールさせ連携することで、スムーズなデータ移行ができます。

■ データ移行アプリでかんたん移行!

Android端末からの移行は、連絡先、写真、動画、音楽、アプリ、メッセージ (SMS)・通話記録、ほとんどの主要データの移行ができます。ただし、古いAndroid端末で「ドコモ電話帳」など、キャリアのアプリでデータ管理していた場合は、キャリアを解約するとデータを引き継げないことがあるので注意が必要です。事前にGoogleの「連絡先」や「カレンダー」アプリに移行してバックアップしておきましょう。

● OPPOスマホ側の操作

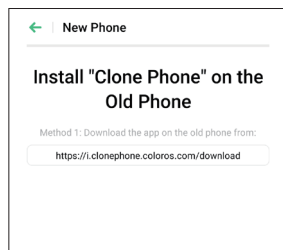
- 1 ホーム画面で<ツール>フォルダをタップして、<データ移行>をタップします。



- 2 画面の指示に従い<New Phone> → <Other Android Phone>をタップして進めます。



- 3 <New Phone>画面で、古い端末への「Clone Phone」のインストールを推奨されます。表示されるURLはメモしましょう。



- 4 URLのメモが済んだら<次へ>をタップします。



- 5 古い端末のClone PhoneでスキャンするためのQRコードが表示されるので、次は古い端末側の操作に移ります。

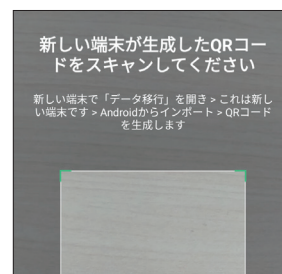


● 古いAndroid端末の操作

- 6 手順3で表示されたURL (https://i.clonephone.colors.com/download) までアクセスして、Clone Phoneをダウンロード→インストールします。



- 7 「Clone Phone」起動後、手順5のQRコードをスキャンします。

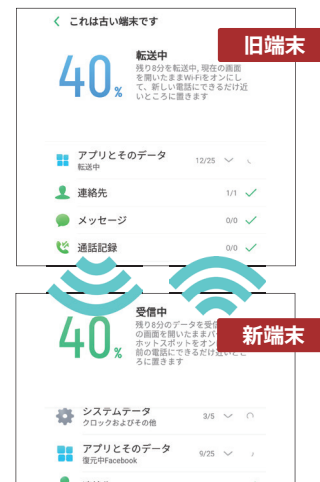


● 新旧2端末での操作

- 8 新旧2端末ともに、<接続中>の画面が表示され、データ移行が始まります。転送速度を上げるため、2端末は並べて置いてください。



- 9 同期がスタートします。同期が完了すれば、連絡先、写真、動画、音楽、アプリ、メッセージ (SMS)・通話記録といった、ほとんどの主要データが移行されます。



LINEを引き継ごう

利用者が多いLINEの引き継ぎ方法を紹介します。アカウントとトーク履歴の引き継ぎ方法を紹介します。

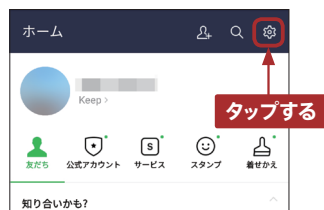
LINEを引き継ぐには

LINEの引き継ぎにはメールアドレスを登録します。LINEの場合、1つのアカウントは1つの端末でしか使えないため、新しい端末に引き継ぐと、前の端末のLINEは利用できなくなります。また注意点として、格安SIMをご利用の場合は、LINEモバイル以外では年齢確認ができないので、年齢認証に関連するID検索などの機能が使えなくなります。

引き継ぐための旧端末側の準備

●メールアドレスの登録

- 1 LINEを起動し、をタップして<設定>を表示します。



- 2 <アカウント>をタップします。



- 3 <メールアドレス>をタップします。



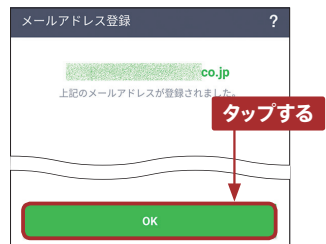
- 4 登録したいメールアドレスとパスワードを入力し<確認>をタップします。このメールアドレスとパスワードは忘れないようにしてください。



- 5 登録したメールアドレスに認証番号が書かれたメールが届くので、確認して入力し、<登録する>をタップします。

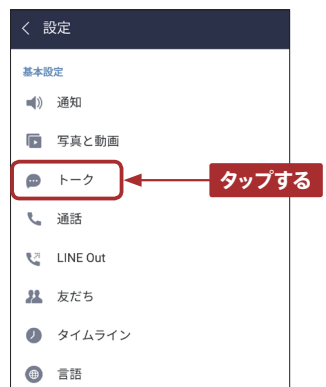


- 6 <OK>をタップします。



●トーク履歴のバックアップ

- 7 <設定>画面に戻り、<トーク>をタップします。



- 8 <トーク履歴のバックアップ・復元>をタップします。



- 9 <Googleアカウント>をタップしてバックアップ先のアカウントを選択するか、アカウントを作成します。



- 10 <Googleドライブにバックアップする>をタップすると、Googleアカウントにトーク履歴がバックアップされます。



● 引継設定を完了させる

- 11 <設定>画面に戻り、<アカウント引き継ぎ>をタップします。



- 12 <アカウントを引き継ぐ>をタップしてオンします。オンになっている状態では、一定時間内に新端末の引継を完了させる必要があります。



MEMO iPhoneからはトーク履歴、コイン残高の引継はできない

iPhoneからはトーク履歴、コイン残高の引継は原則できないのでご注意ください。
LINE Keepを利用すれば、一部トーク履歴の引継には対応しています。

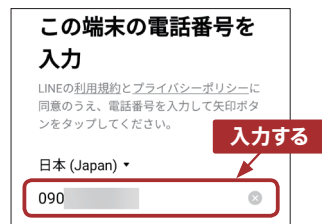
■ OPPOスマートフォンにLINEを引き継ぐ

● アカウントを引き継ぐ

- 1 OPPOスマートフォンにLINEをインストールして起動して、まずはアカウントの引き継ぎから行います。<はじめる>をタップします。



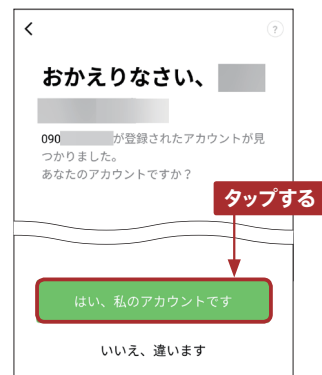
- 2 端末の電話番号を求められるので入力します。



- 3 入力した電話番号に認証番号を伝えるSMSが届くので、入力します。



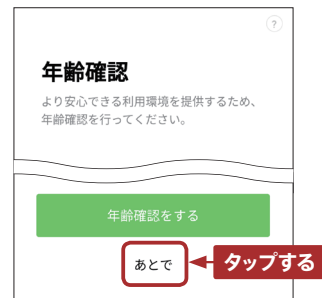
- 4 アカウントが見つかり正しければ、<はい、私のアカウントです>をタップします。



- 5 P.20手順④で登録したパスワードを入力します。

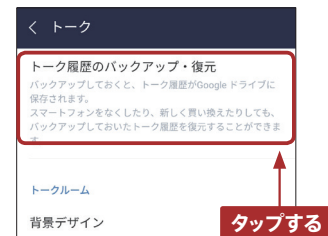


- 6 画面に従い進めていくと、最後に<年齢確認>を求められます。ここでは、<あとで>をタップして引き継ぎを完了させます。友達などはこれで引き継ぎます。



● トーク履歴を引き継ぐ

- 7 <設定>画面に戻り、<トーク>→<トーク履歴のバックアップ・復元>をタップします。



- 8 <Googleアカウント>をタップして、P.21手順⑨で登録したGoogleアカウントを設定します。



- 9 アカウントを確認して、<復元する>をタップすれば、トーク履歴の復元が開始されます。



カメラで写真・動画を撮ろう

OPPO Reno Aには高性能なカメラ機能があります。写真や動画を手軽に美しく撮影でき、多彩なモードや設定が利用可能です。

カメラで写真を撮る

● 写真を撮る

- 1 ホーム画面の<カメラ>アプリをタップします。



- 2 ピントを合わせたい箇所はタップして合わせられます。●ボタンをタップすると、写真が撮影できます。長押しするとバーストショット（連続撮影）ができます。



● フラッシュや補助光を設定する

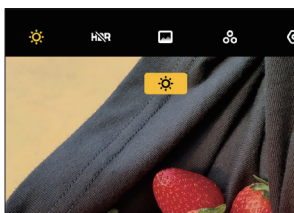
- 1 撮影画面の左上に表示される⚡をタップします。



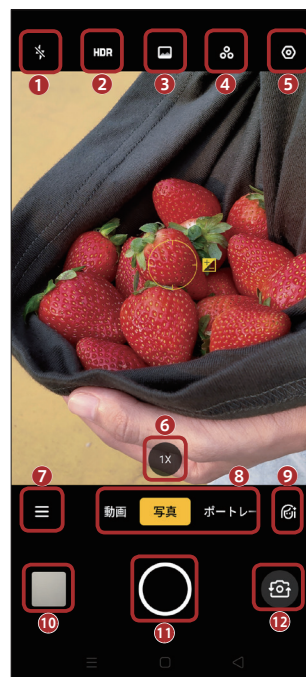
- 2 フラッシュのオン・オフや補助光の設定ができるのでシーンにあわせて設定しましょう。



- 3 <補助光>の設定をするとカメラの起動中は常にライトが発光するようになります。



撮影の基本操作や設定



1	フラッシュや補助光の設定
2	HDRのオン/オフ
3	幻惑色（ダズルカラー）のオン/オフ
4	マクロレンズの設定
5	アスペクト比やタイマーなどの設定画面
6	ズーム切替（P.26）
7	切り替えメニュー（下表詳細）
8	動画、ポートレートモードの切替メニュー
9	AI補正（P.28）
10	撮影済み写真のプレビュー縮小表示
11	撮影ボタン
12	インカメラ/アウトカメラ切替

7 切り替えメニュー詳細

夜	暗い場所でも連写した写真を1枚に合わせることで夜景を鮮明に撮影できます
パノラマ	180度のワイドな画角で横長の写真が撮れます
エキスパート	ホワイトバランスやISO、露出などを個別指定して撮影します（P.27）
タイムラプス	静止画をつなげたような動画の撮影ができます
ステッカー	楽しいキャラクターのスタンプを追加した撮影ができます
Google Lens	身の回りのものをカメラで撮って調べる機能です（P.29）

カメラで動画を撮る

- 1 画面を左右にスワイプすると、<動画>、<ポートレート>モードに切り替えられます。<動画>にスワイプして、●をタップすれば撮影できます。



- 2 動画撮影中に⏏をタップすると撮影の一時停止、⏹をタップすると動画を撮影しながら写真撮影ができます。動画撮影を終了するときには、●をタップします。



■ ズームで撮影する

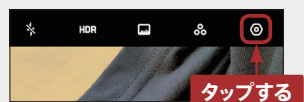
OPPO Reno Aのカメラのズームには、撮影画面の＜1x＞をタップする方法、指でピンチする方法、＜1x＞をロングタップして表示されるメーターを動かす方法の3種類の撮影方法があります。最大で10倍までズームできます。



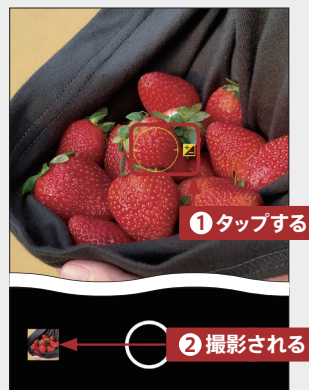
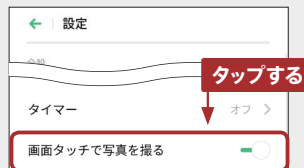
MEMO 画面のどこでもタップすれば写真を撮れるように設定する

撮影ボタンを押さずに画面をタップするだけで写真を撮れるよう設定ができます。

- 1 画面右上の📷をタップすると、撮影メニューが表示されます。
- 2 <画面タッチで写真を撮る>にタップをすると、画面のどこをタップしてもシャッターができるようになります。
- 3 タップした箇所でピントが合い、撮影できます。



- 2 <画面タッチで写真を撮る>にタップをすると、画面のどこをタップしてもシャッターができるようになります。



■ ポートレートモードで被写体を印象的に撮る

ポートレートモードを使うと、被写体をくっきりとさせることができます。さらに背景をぼかすことによって、被写体がより際立ち、表現力の高い写真が撮影できます。

- 1 画面を右から左へスワイプして＜ポートレート＞に切り替えます。
- 2 背景をぼかして、中心にしたい被写体の強調度が上がり、より印象的に撮れます。



■ エキスパートモードで明るさや色味を調整しながら撮る

エキスパートモードなら、シャッタースピードやホワイトバランスを調整して、暗い場所でもきれいに写真撮影できます。

- 1 画面左下の☰から表示できるメニューの＜エキスパート＞をタップします。
- 2 明るさやホワイトバランスなどを調整しながら撮影できます。＜EV＞のメーターをスワイプすれば明るさが調整され、同じ風景でも写真の映り方が全く変わります。



■ インカメラで自撮りする

撮影画面右下に表示される📷をタップするとインカメラに切り替わります。インカメラには「AI補正」が標準で搭載されているので、自然と“盛れる”自撮り写真が撮影できます。さらに美肌、小顔、デカ目など、写真映りを自分好みに追加して補正する機能も充実しています。

1 📷をタップします。

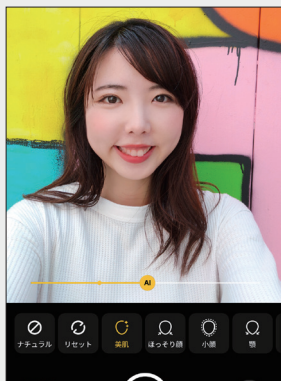


2 インカメラが起動して、自撮りができます。



MEMO AI補正で最高の自撮りを!

撮影画面右下の📷をタップすると、さらに多彩な写真補正機能を追加できます。写真映りを自分好みに補正して、自撮りを楽しみましょう!



<美肌>モードなら、肌色が不自然さなく滑らかに表現されます。

■ Google Lensで調べる

OPPO Reno Aのカメラ機能には、Google Lensが標準でインストールされています。カメラに映した、身の回りにあるものを手軽に調べられます。

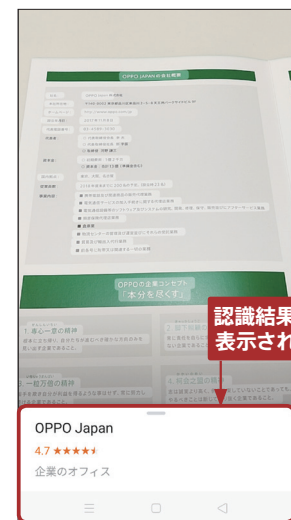
1 画面左下の☰から表示できるメニューの<Google Lens>をタップします。



2 資料を写すと、テキストを認識します。検索したい箇所をタップすると認識結果が表示されます。



3 URLを認識してマップなどの情報を参照してくれます。



■ 写真や動画は後から補正できる

撮影した写真や動画は<写真>アプリを使って、後からでも補正ができます。写真を表示すると<編集>があり、さまざまな補正メニューが選択できます。



■ 撮った写真をシェアしたい相手に送る

カメラで撮影した写真や動画は<写真>アプリで、友達や職場の人たちへ手軽に早く送って共有できます。写真や動画を共有するには、メールに添付して送信したり、Bluetoothで近くの端末に送信したりなど、いろんな方法を選択できます。

- 1 ホーム画面の<写真>アプリをタップします。



- 2 共有したい写真を選択して、メニュー左下にある<送信>をタップします。

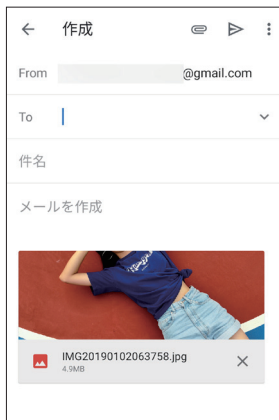


- 3 共有方法を選択する設定画面が表示されます。



● Gmailでシェア

<Gmail>をタップすれば、写真や動画が添付されたメールが作成されます。宛先、件名を入力して、共有したい相手に送信しましょう。



● Bluetoothでシェア

<Bluetooth>をタップすれば、近くにあるBluetoothペアリングしている端末が表示され、画像をシェアできます。



OPPO Reno A 128GB スペック



■ ブルー



■ ブラック

アウトカメラ	1600万画素 (f/1.7 絞り値) 200万画素 (f/2.4 絞り値)
インカメラ	2500万画素 (f/2.0絞り値)
CPU	Qualcomm® SnapdragonTM 710 オクタコアCPU : 2×2.2GHz + 6×1.7GHz
内蔵メモリ	RAM 6GB/ROM 128GB
外部メモリ	microSDXC 最大256GB
バッテリー	3600mAh
ディスプレイ	6.4インチ/ FHD + (2340×1080) / AMOLED (有機EL) /ゴリラガラス5
SIMカード スロット	nanoSIMスロット×2 ※ DSDV対応、VoLTE はdocomo/au/Rakuten/Y!mobileに対応。その他のキャリア に関しては動作保証が取れておりません ※ nanoSIMカード(SIM2)とmicroSDカードは排他利用となるため、同時使用できません
OS	ColorOS 6.0 (based on Android 9.0)
サイズ	約 158.4mm×75.4mm×7.8mm
重量	約169.5g
対応周波数	FDD-LTE : Bands 1/2/3/4/5/7/8/18/19/26/28 TD-LTE : Bands 38/ 39/40/41 WCDMA : Bands 1/2/4/5/6/8/ 19 GSM: 850/900/1800/1900MHz キャリアアグリゲーション対応
無線通信方式	Wi-Fi : 2.4/5GHz 802.11 a/b/g/n/ac FeliCa対応 テザリング対応
Bluetooth	Bluetooth5.0
生体認証	ディスプレイ指紋認証・顔認証
防水/防塵機能	IPX7/IP6X
センサー	磁気センサー /光センサー / 近接センサー / 加速度センサー /ジャイロセンサー
位置情報	GPS/A-GPS/GLONASS/Beidou/Galileo
USBポート	Type-C/USB2.0対応/OTG対応
その他	ハイレゾ対応
本体付属品	電話機×1/AC アダプター×1/イヤホン×1/ USBデータケーブルType-C×1/ 安全ガイド×1/ クイックガイド×1/ SIM カードスロット用ピン×1/ 保護ケース×1/ 保護フィルム (貼付済み) ×1

OPPO Reno 128GB

オッポジャパンに関する情報はこちらでご確認いただけます。

www.oppo.com/jp

SNS ID: OPPOJapan

Website



Twitter



Instagram



Facebook



■記載されている会社名、製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。■掲載した商品のサービス・仕様・デザインなどは予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。■掲載した商品写真は、印刷のため実際の色と異なる場合があります。■記載内容は2019年9月現在のものです。